

早稲田文化館日本語科「学ぼう!にほんご中上級」授業実践報告

鈴木, 優作
早稲田文化館日本語科 : 非常勤講師

<https://hdl.handle.net/2324/4842525>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.120-120, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、新型コロナウイルス流行の影響により日本への入国を自国で待機していた留学予定の学生たちに向けて留学前の準備段階として行われたzoomによるオンライン授業の一環である。夏学期(7~9月)から秋学期(10~12月)にかけて週5回1日45分×4コマの授業の内3コマを占めた主教材「学ぼう！にほんご中上級」(専門教育出版)を用いた授業であり、概ね日本語能力検定 N1 取得者を中心とする「オンライン上級クラス」(20人程度、国籍は全て中国)を対象として、日本語による直接法で行った。

本教材のレベルは日本語能力試験N1に対応している。全15課で構成され、各課は、導入部「この課を学ぶ前に」、本文「読んでみよう」、本文に関する質問「質問」、文法「重要な文型と表現の学習」、会話「みんなで話そう」、聴解「聞く練習」、語彙「語彙を増やそう」、総合問題「総合発展練習」から成り、聞く・話す・読む・書く4技能全てに対応した総合的な教材で、対面授業においても大学・大学院進学を目指す上級クラスの主教材として広く使われている。「導入」では、まず各課の主題に関する身近な事柄について質問し、発言しやすいムードづくりに努めた。「本文」では本来コーラスからソロへと音読を進めるが、自宅という環境での発話にいきさか難があり、一文ずつのソロのみとした。その後15~20分程度時間を取り「質問」の回答を作成させ、本文に解説を加えつつ回答を添削した。各学生は教材を購入しているが該当頁をPDF化して画面共有しつつハイライトで言及部分を示したり、コメント機能で説明を加えるなど視覚的な補足を重要視した。これは自国ですでにN1を取得している学生であっても、会話の機会がないために教師の発話が聞き取れない学生が多いためである。「重要な文型と表現の学習」では文型の意味確認をした上で短文作成を行い、口頭で発表させ、教師がPDFのテキストボックスやチャット機能により修正文や模範解答を提示した。「みんなで話そう」では提示された話題について一人ずつ自身

の意見を述べさせ、簡単な質疑応答をした。「聞く練習」では音声共有により聴解を、「語彙を増やそう」では語彙を、それぞれ練習した。「総合発展練習」では簡単なプレゼンテーション、表やグラフの読み取りを行った。授業全体を通じて、学生の反応を測るために教師の質問に反応ボタンで応答させたり、選択問題ではアンケート機能で回答させるなどzoomの機能を適宜活用した。

自宅での授業ゆえ通常成績評価に用いる筆記試験は練習問題とし、評価は授業内の平常点によった。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

日本語教育は一般的に、学生の発話を可能な限り引き出すことで授業を活性化させる教室活動を前提としており、教師が一方向的に説明するのみの授業は望ましくない。そのため学生が聞くのみの立場になりがちなオンライン授業においては、学生のアウトプットをどれだけ拾い生かし、いかに自然なコミュニケーションとしての日本語能力を向上させられるかが今後の課題である。

また、今年度試験的に導入されたオンライン授業であるが、地理的制約を伴わないメリットに着目して、留学とは別コースで定期的な海外とのオンライン授業に展開していくことが新たな可能性として考えられるだろう。

オンラインゆえの学生の反応の掴みづらさがあり、カメラやマイクを使わない学生に対してその導入を促していくことも、教師と学生との対話により成立する日本語教育の場として必要だろう。